

土佐教育研究会

土 佐

No, 1 4 6 2 0 2 0 . 3

(ホームページ掲載)

《国語部会》

第60回 高知県国語教育研究大会

1. 大会主題 思考力を育てる国語科授業づくり
2. 会 場 高知学園高知小学校
3. 大会内容 提案授業, 分科会, 講演
4. 提案授業

学年・組	授業者	教材名	助言者
1年B組	山本 真美	「じどう車くらべ」	片岡 忠三 (高知市教育委員会 学力向上スーパーバイザー)
2年B組	渡辺 留美	「しかけカードの作り方」 「おもちゃのつくりかた」	西岡 博子 (高知市教育委員会 学校教育課指導主事)
3年B組	江角 亜子	「すがたをかえる大豆」 「食べ物のひみつを教えます」	西本 壽香 (高知市立旭東小学校校長)
4年B組	山崎 千晴	「アップとルーズで伝える」 「クラブ活動リーフレットを 作ろう」	田中 元康 (高知大学教育学部 附属小学校教諭)
5年B組	佐用 京子	「天気を予想する」 「グラフや表を用いて書こう」	小笠原 哲司 (高知市教育委員会 学力向上スーパーバイザー)
6年B組	中屋 浩典	「鳥獣戯画を読む」 「この絵, 私はこう見る」	大坪 顕彦 (高知大学教育学部 附属小学校教頭)

5. 講演
講師 白石 範孝 先生 (明星大学教授)
演 題 論理的思考力で深い学びを目指す授業づくり

6. 大会を終えて

提案授業では, 6学級全学年にわたって読解教材と言語活動を関連させた授業が公開された。授業後の分科会では, 提案授業をもとにした話し合いが行われた。東京書籍採択の学校がほとんどの中, 今回は光村図書の教科書教材のため, 新たな学びが多かった。講演では, 講師としてお招きした明星大学教授の白石範孝先生より, 新学習指導要領において示される主体的・対話的で深い学びへ向かう国語科授業のあり方についてご示唆いただいた。県下から集まった参会者より, 「明日からの授業づくりに生かせる有意義な会でした」という声を多数聞くことができた。助言者でもある小笠原先生の呼びかけにより, 高知大学より多くの学生の参加をいただいた。学生の皆さんからも, 「卒業後すぐに教壇に立つ立場として大変参考になった」という感想をいただくことができ, 充実した研究大会になった。

1 期日・会場 令和 2 年 1 月 28 日（火） 高知市立大津小学校

2 公開授業

(1) 1 年 「かくのながさとほうこう」

この授業では、点画の長短や方向に気をつけて書くことを目標として学習を行った。まず、「三」「立」の文字を試し書きし、その後いくつかの「三」の文字を見せ、字形を整えて書くには横画を一画長く書くとよいことに気づかせた。これまでに児童は、「とめ」「はね」「はらい」などの筆使いを中心に学習している。字形を整えるために、画の長さや方向に注意して書くことは 2 年で学習する。この教材では、その前段階として、画数の少ない漢字や片仮名を例にとり、画の長さや方向には違いがあることを理解させようとした。また、友達の書いた文字の画の長さも確かめ、お互いの良さを認め合うようにした。対話を取り入れて、児童が書かれた文字について気づいたことを伝え合い、より正しく字形を整えた文字を書くことを目指した授業が行われた。

(2) 3 年 「まとめ（水）」

この授業では、第 3 学年で学習したことのまとめとして「水」を書く学習を行った。毛筆の学習で点画の書き方（縦画・横画・点・折れ・はらい・はね・曲がり）等について学習してきており、文字の中心も学習してきた。「水」という文字を書くにあたって、これまで学習したことの中から自分なりの課題を見つけ、それを克服できるよう、めあてを持って取り組むことを目指した。

大津小学校では、「学びあう子」の育成のため、授業の中での友だちの発言や出来事を繋ぎ、学びあいの場としての授業を創造することに取り組んでいるので、本単元においても、友だち同士の学びを共有し、互いに良くなったところを伝え合う活動を取り入れることで、「対話的な学び」の実現を目指した。

3 講演

横浜国立大学教授 青山浩之先生を講師にお迎えして「新学習指導要領と書写指導のポイント」の演題で、ご講演をいただいた。新学習指導要領では、中学校書写と高校の連携が強化されたことがまず述べられた。そして、学習指導要領解説で「文字文化」とは、上代から近現代まで継承され、現代において実社会・実生活の中で使われている文字の文化であり、我が国の伝統や文化の中で育まれてきたものと捉えられていることが話された。文字文化には、文字の成り立ちや歴史的背景といった文字そのものの文化と、社会や文化における文字の役割や意義、表現と効果、用具・用材と書き方との関係といった文字を書くことについての文化の両面があることも話された。

また、青山先生が実際に毛筆で文字を書かれ、実物投影機で見ることによって、硬筆よりも点画がはっきりと分かった。それにより毛筆で書くことで点画の曖昧さを直していくことの大切さについても触れられた。

青山先生の実技も交えた講演によって、これからの書写教育やその指導のポイントについて、多くのご示唆をいただいた。

第 67 回高知県社会科教育研究大会

1. 研究主題 「人々の営みに学び、未来を切り拓く力を育てる社会科学習」
2. 副 主 題
(小学校) ～一人ひとりが考え、みんなで学び合う学習～
(中学校) ～社会の変化に対応できる思考力・判断力・表現力の育成～
3. 期 日 令和元年11月29日(金)
4. 会 場 (小学校部会・全体会場) 高知市立昭和小学校
(中学校部会) 高知市立大津中学校・介良中学校
5. 公開授業・分科会の協議内容
 - (1) 小学第3学年 「安全なくらし」
 - ・消防分団の必要性について考え、議論をしていった。児童が自分の言葉で考え、発言をしていくことはできていたが、課題にせまることができにくかった。児童の思考をふまえた課題設定を考えていくことが大切である。
 - (2) 小学第4学年 「私たちの高知県」
 - ・学習指導要領に則った問題解決的な活動が重視された授業だった。また、多角的な視点から「一本釣り」を考えたこともよかった。「何のために」という意見がたくさん出されたので、その意見をさらにつなげて授業を展開できたらよかった。
 - (3) 小学第5学年 「くらしを支える情報」
 - ・ネットショッピングの利便性と危険性の両方を捕らえることのできた授業だった。児童は自分たちなりに意見を述べることができ、ネットショッピングをどのように利用すればよいかを深めることができた。
 - (4) 小学第6学年 「新しい時代の幕あけ」
 - ・単元計画が授業のつながりを意識したものだった。地域の歴史に触れる機会が少ないため大切な授業だった。歴史的事実は、児童が判断する力を育てることにつながっていくため、自分の思いをしっかりと伝えられるような授業作りを行っていきたい。
 - (5) 中学第2学年 「自由民権運動と西南戦争」
 - ・板垣退助、植木枝盛の高知県出身の人物を取り上げ、政治家、思想家；国民の立場から考察し、自由民権運動が日本の近代化にどのような影響を与えたかを考えさせる授業であった。全中社研に向け、単元構想や資料の精選などについて検討された。
 - (6) 中学第3学年 「企業の社会的責任」
 - ・地域教材を中心として、未来のことを自分事として学ぶことができた授業であった。頑張っている地域の人々、企業、地方自治の活動をテーマに授業を組み立てたことは興味深いものであった。子ども達が前向きにとらえ、取り組める内容だった。
6. 記念講演 演題 「正解」から「納得解」へーこれからの社会科学習が大切にするものー
講師 小林 宏己 先生 (早稲田大学 総合科学学術院)
これからの激しい社会の変化に対応していくために、納得のいく見方・考え方が大切である。だからこそ、考えることをあきらめない子どもの育成が必要となってくる。そのため、教師は、学びの環境づくりや子ども同士の対話・議論により「深い学び」へとつながられる授業展開を行っていく必要がある。また、授業で教師が出る場を少なくし、人間性を生かす効果的な教師の出番を設定していくことで、真理・価値・生き方の追究が深まり、自ら考え、より善く生きようとする子どもの育成につながる、などの貴重な教授をいただいた。

《算数・数学部会》 第52回 中国・四国算数・数学教育研究（高知）大会

1. 研究主題 「数学的活動を通して深い学びを実現する算数・数学教育」
 2. 期 日 令和元年11月7日（木）・8日（金）
 3. 会 場 全体会・・・高知県立美術館ホール 小学校部会・・・潮江南小学校
 中学校部会・・・高知大学教育学部附属中学校 高校部会・・・高知会館

4. 討議内容

【小学校部会】

学年	単元名	授業者	指導・助言者
1	どちらがひろい	井上 布久美	大坪 麻史 高知県教育委員会東部教育事務所
2	九九をつくろう かけ算(2)	町田 真理子	吉岡 身佳 高知県教育委員会小中学校課
3	はしたの大きさの表し方を考えよう ～分数を使って～	中内 由佳	中川 弘子 高知市教育委員会学校教育課
4	広さを調べよう	岩田 未来	松田 五月 高知県教育委員会中部教育事務所
5	単位量当たりの大きさ	畠山 佳之	山中 幸蔵 高知県教育委員会学校教育課
6	資料の特徴を調べよう 「名監督になろう」	川村 真理子	越智 知恵 高知市教育委員会学校教育課
みなみ	数で遊ぼう	岡田 高子 西川 美智 岡 麻里	楠瀬 浩子 高知市立高知特別支援学校

【中学校部会】

学年	単元名	授業者	指導・助言者
1	グラフは情報の宝庫だ	中川 貴之	小松 洋子 高知県教育委員会東部教育事務所
2	五角形の内部10個の点をとると…	岡林 英裕	大石 裕千 高知県教育センター
3	タブレットを使って条件を探る	橋口 和恵	岩城 多加仁 高知市教育委員会学校教育課

5. 講演

- 演題① 『海底下に広がる巨大生命圏』
 講師 星野 辰彦（国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）超先鋭研究開発部門
 高知コア研究所地球微生物学研究グループ 主任研究員）
 演題② 『ロボットによる海底調査！』
 講師 中谷 武志（国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）
 研究プラットフォーム運用開発部門 技術開発部
 海洋ロボティクス開発実装グループ 技術研究員）

6. 大会を終えて

本年度、会場校を依頼した潮江南小学校は授業の中ではぐくむ人間関係を基盤にし、生きて働く言語能力の育成を目指した学び合いのある授業を提案していただいた。また、高知大学教育学部附属中学校では伊野中学校、朝倉中学校、高知大学教育学部附属中学校の各校による生徒主体の授業づくりについて学ばせていただいた。全体会では、星野辰彦先生、中谷武志先生に講演をいただいた。次期学習指導要領の全面実施に向けて児童生徒の主体的で対話的で深い学びの具現化が求められる中、お二人の先生方のお話を通して追究したい問いを明確にした探究的な学びの大切さを改めて学ばせていただいた。また、自ら学ぶ力や課題解決能力、共に学ぶ力等の「生きる力」を育むよう、算数・数学科として「思考力・表現力の向上」のために、教材研究や授業研究、学習指導方法の改善など、教育活動の充実と改善をさらに進めていかなければならないことを互いに確認し合うことができた。

《理科部会》

【小学校】

第67回 高知県理科教育研究大会 高知大会

1. 大会主題 自然に親しみ、科学的に解決する力を育てる理科教育
2. 会場 佐川町立黒岩小学校
3. 提案授業

学年	授業者	单元名
4年	安井 正仁 (黒岩小)	水のすがたと温度
5年	中田 浩香 (黒岩小)	ふりこのきまり
6年	徳永 幸 (黒岩小)	てこのはたらき

5. 支部提案

学年	支部	提案者(所属)	発表題目
3年	高知	棟田 一章 (高須小学校)	子どもの論理をつなぎ、科学的に解決する理科授業 ～第3学年「磁石の性質」の実践を通して～
	安芸	田村 和之 (奈半利小学校)	奈半利小生き物マップをつくろう ～動物のすみかを調べよう～
4年	香美 香南	井上 達哉 (片地小学校)	自然に親しみ、科学的に解決する力を育てる理科教育—対話的で探求的な学びにつながる授業づくりの工夫—
5年	土長 南国	西森 俊介 (長岡小学校)	自然に親しみ、科学的に解決する力を育てる理科教育
6年	幡多	加河 宏文 (大島小学校)	児童が主体的に関わることのできる理科授業の創造～主体的・対話的な深い学びを通して～

7. 参加者 高知県内より 50名参加

【中学校】

第67回 高知県理科教育研究大会 大会

1. 大会主題 自然に関わり、科学的に解決する力を育てる理科教育
2. 会場 佐川町立佐川中学校
3. 提案授業

学年	授業者	单元名
3年	林 智久 (佐川中学校)	酸・アルカリとイオン

4. 領域別支部提案

領域	支部	提案者(所属)	発表題目
環境教育	高知	山崎 育夫 (朝倉中学校)	「身近な環境に存在するマイクロプラスチックについての調査」を生かした環境教育の実践

5. 参加者 高知県内より 61名参加

生活科・総合的な学習部会

第11回 四国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会研究大会

第26回 高知県生活科・総合的な学習教育研究大会県大会

大会主題

新たな時代を切り拓く子ども

～ふるさとの未来を創造する～

〈 公開授業・授業部会 〉

学年	単元名
1年	あきとなかよし
2年A組	全力 まちたんけん やってみよう!
2年B組	めざせ!もの作り名人
3年	香美市を世界へ ～よっちょれ!よさこいプロジェクト～
4年	一歩ふみ出し世界へはばたけ35人 ～世界一おもしろい学校をつくろう～
5年	バザーを盛り上げよう
6年	I Love 香美市盛り上げYo☆ ～こちら楠目小観光課～

分科会	担当
第1分科会 地域力を活用した単元計画	愛媛(生) 高知(総)
第2分科会 生き生きと探究できる学習過程	徳島(生) 高知(総)
第3分科会 子どもの良さや可能性を見取る 評価活動	香川(総) 高知(生)
第4分科会 成長を自覚する教師の支援	愛媛(総) 高知(生)

〈 課題別分科会 〉

○授業部会

- ・授業の中での思考ツールの生かし方や、子どもたちが十分に活動するための場の設定が重要である。
- ・カリキュラムマネジメントがとても重要で、子どもたちにどんな力を付けたいかを明確にしてから実践する必要がある。
- ・地域との連携が強く、地域を大切にしているところがよい。子どもが自分の地域を知ろうという活動は地域にとっても嬉しいことだろう。

○課題別分科会

- ・評価は、子どもの気付きを普段からしっかり見取ることが大切である。
- ・先生が生き生きと前向きに取り組まなければならない。生活・総合は、教師を含め場の設定までが大切である。

○その他(アンケートより)

- ・香美市が一体となってふるさと香美の子どもたちを育てているのだなど思った。
- ・昼食時の山田高校のプレゼンやお弁当(ネギトン丼・しゃも弁当)が工夫されており、一日があつという間の研究会だった。

《音楽部会》

第66回 高知県音楽教育研究大会（土長南国大会）

- 1 大会主題 「さがす 深める つなぐ～今こそ音楽で感動を～」
- 2 期日日程 2019年11月29日（金）午後校種別公開授業、全体会
- 3 会場 〈 授業会場 〉 南国市立日章小学校（1クラス）
南国市立香長中学校（1クラス）
高知県立岡豊高等学校（1クラス）
〈 全体会場 〉 高知県立岡豊高等学校 学年集会室 研究演奏
- 4 研究の概要及び成果と課題
小学校部会 南国市立日章小学校 5年生 授業者 原池 恵莉香
「音楽に思いを込めて」
中学校部会 南国市立香長中学校 2年生 授業者 岩本 恵美
「ダイナミクスを工夫して表現しよう」
高等学校部会 高知県立岡豊高等学校 1年生 授業者 松居 考行
「中国音楽に親しもう」
研究演奏 小学校部会 合唱 南国市立十市小学校
中学校部会 合唱 南国市立鷺ヶ池中学校
高等学校部会 合唱、吹奏楽 高知県立岡豊高等学校

6 成果と課題

土長南国支部の方をはじめ、県下から約100人の参加者が集まり開催できた。小学校、中学校、高校と各校種の授業やいろいろな演奏、発表にふれる唯一の機会が県大会である。今後支部との交流の場として、各校種との交流の場として発展できるように運営等よりよい方向を考えていきたい。また、この大会から半日開催に戻り、研修など出にくくなってきている現実としては、学校を出やすくなったと思われるが、日程的に厳しい状態であるとは感じられる。

部会別の授業に関して、授業づくりや指導案検討がおこなわれ、当日を迎えることとなった。土南国支部は範囲も広く、小規模の学校も多く広い範囲になっており、なかなか厳しい中での研究大会であったと思われるが、この機会に研究演奏でも校種別でもそれぞれが協力し、合同の練習会を持ったことで他校の生徒や教員との交流も深めることができたように思われる。

県大会を開催するに当たり、各校種での研究授業の取り組み方や研究体制が改めて高知市の音楽に関わる教員の確認ができたように思われる。来年には、「中四国音楽教育研究大会」を本県で開催することが決まっているので、研究や運営、参加体制など再確認することで、取り組みの準備をすることができて非常によかったと思われる。

次年度は香美・香南支部で県大会が開催されるが、プレ大会と意識し、高知市だけでなく、県下で協力し高知県の音楽教育の発展や教員の連携にも取り組んでいきたいと確認された。

土佐教育研究会造形教育研究部会

第59回高知県造形教育研究大会報告

大会主題 「一人ひとりの豊かな感性と創造力を育てる造形教育」
公開授業 造形遊び（小学校2年生） 授業者：高知市立江ノ口小学校2年担任
実践発表 「つなぐ造形」 横田敬子 教諭（高知市立小高坂小学校）

【参加者より】

- ・ 図画工作はこうあるべきという、原点に戻った気持ちになる実践発表だった。子どもと作品を大切に成長をみつめた実践で、若い先生に伝えたい内容だった。
- ・ 愛情、丁寧さ、いろいろな場面で若い先生に聞いてもらおうと相乗効果があると思う発表だった。和紙の使い方に感動した。伝統工芸の未来にもつながると思った。
- ・ 私は見た目的にいい作品をつくることを気にしながら授業をしてきたが、今回の発表では対話から子供の思いを引き出すことで良い作品ができていた。会話からの良い作品づくりをしたいと思った。作品もたくさん見せていただき、それぞれに子どもの発想だけでなく、先生の学ばせた意図が見られて良かった。
- ・ 一人ひとりの子どもと話しながら活動できている。先生の子どもにかける素敵な言葉が良かった。
- ・ 素敵な言葉がけが印象的だった。造形活動が嫌いな子どもをつくらないと思う。若い先生方にも伝え、広めていきたい。

・ 助言者より（児玉富貴子 芸術幼稚園園長、高知県造形教育研究会顧問）

芸術とは辞書によると「表現する人とそれを鑑賞する人が心を合わせて感動すること」とある。子どもへの接し方には、図工や造形活動が元になると思う。

泣いたときは、まず抱きしめて、心が落ち着いたら話をする。目を合わせることも大切である。喜んでいて、悲しんでいるなどの感情を肯定的に、一緒にとらえてくれていると感じることが子どもには大事であり、それによって子どもが安心する。基本的な信頼関係があれば遊びに集中でき、自分を認めてくれているという気持ちが絵につながる。指導者に大事なものは、させることでなく、子どもが考えていることを考えることである。子どもが可能な限り自分で選択できるようにすることで、非認知能力の育成ができる。目で見える成果でなく、失敗しながらゆっくりでもよいので、その子のペースでやらせる必要がある。制作と併せて、自己評価や友達に作品の感想を書いてもらうなどの活動をすることでコミュニケーション力も育成できる。

江ノ口小学校には掃除中に来たが、子どもの挨拶が良い。掃除も一生懸命している。玄関の子どもの作品にも感心した。子どもが「繋げなくてもこれだけで面白い」と言っていたが、普段と違う空間の中で喜んで活動していた。普段からの活動が本物であるといえる。「先生も楽しみです」というような先生の声かけも良く、うれしい授業風景だった。また、今回の実践発表のような意欲を伸ばす声かけ、子どもへの接し方、この色で表したいという気持ちを大事にしているなどの素晴らしい授業のノウハウを伝えていくことが高知県のこれからの大事なことだと思う。

小学校家庭科部会

1. 研究大会

- (1) 大会主題 「自分の思いやよさを生かし、よりよい生活を創り出すこどもをめざして」
- (2) 期日 令和元年8月19日(月)
- (3) 会場 高知県立消費生活センター
- (4) 模擬授業

今年の県大会は、伽年度より高知県立消費生活センターと連携を組み、小学校における消費者教育の副教材作成研究の一環として作成した消費者教育の副教材が完成したので、紹介も兼ねて「めざそう 買い物名人」の題材の模擬授業をおこない、その後のワークショップ「手縫いで作ろう！ひんやりスカーフ」では、熱中症対策にもなるスカーフを作った。

消費者センターとのタイアップで作成した副教材は、学習指導要領の「D 身近な消費生活と環境」の内容を学習する際に使用できるように作成した。全時間通して使えるパワーポイントを始め、改訂された時に新設された契約の部分の授業案を詳しく作っており、この副教材を使うと1つの題材が楽しく学べるようになっている。また、展開例は新設された契約の授業しか載っていないが、パワーポイントは全時間作成している。そのため、冊子にはスライドの説明が入っており、1時間の流れが分かるようになっている。そこで今回は副教材の良さを伝えようと、全時間を使い方や授業でのポイントを交えながら、模擬授業をおこなった。今回は参会者には児童役になっていただき、実際に授業を受けてみることで子どもの視点に立って副教材の使い方を体験していただいた。発問されたことに対して大人でも答えに困ることがあり、「知っているようで案外難しいけど、パワーポイントを使うと無理なく学習できそう」「子どもも楽しく学習に取り組めそう」と参会者から感想をいただいた。

この副教材はパック化され、高知県の全ての小学校に配布されている。ノートとして使用できる消費者手帳は2年間分はきれいに製本されているものが配布されている。また、CD-Rには、副教材のデータが全て入っているので、自分で手帳を作ることもできる。日常生活を送る上で、買い物をする場面は必ずある。さらには品物をはじめ、買い物の仕方や支払い方法が変化してきていることから、この副教材を使うことでかしこい消費者になるためにはどうしたらいいのか考えるきっかけにさせていただきたいと思う。

(5) ワークショップ

ここでは、「手縫いで作ろう！ひんやりスカーフ」ということで、保冷剤を入れることができるスカーフを作った。作り方としては、①バンダナを三角に折る②保冷剤を入れるために縫うところにしるしをつけてなみ縫いをする③首の後ろ側になるところにボタンをつける④スカーフをとめるためにくるみボタンを作るとなっており、5年生が手縫いを学びながらつくれるようになっている。参会者の皆さんも「簡単に暑さ対策のグッズが作れていいね」「バンダナや糸の色を選べるのも楽しさの1つですね」と好評をいただいた。今回は男性の参加もあり、「針と糸をもって作るのは小学生以来ですよ」と言いながら集中して作られていたのが印象的であった。くるみボタンを作る時はさらに盛り上がり、「こんなに簡単にくるみボタンが作れるキットがあるんだ」「クラブでも作れそう」と言葉を交わしながら完成させていった。

第58回高知県中学校技術・家庭科研究大会の報告

— 大会開催要項 —

1. 主催 土佐教育研究会中学校技術・家庭科部会
2. 後援 高知県教育委員会 高知縣市町村教育委員会連合会
3. 期日 令和2年1月31日(金)
4. 会場 高知市立城東中学校
〒780-0055 高知市江陽町1-20 TEL 088-883-7188
5. 研究主題 「主体的な学びとなる授業を展開し、技術や生活の営みをよりよくする見方考え方ができる生徒の育成」
6. 日程

14:25～14:35	14:35～15:25	15:30～15:45	15:50～16:20	16:20～16:35	16:40～17:00	17:00～17:15
受付	公開授業	開会行事	研究協議	指導助言	(技) 講演 (家) 研究発表	閉会行事

7. 公開授業・研究発表

授業者	内容
高知市立城東中学校 教諭 馬詰 敦 先生	B 生物育成の技術
高知市立城東中学校 教諭 吉本 実由 先生	旧D 身近な食生活と環境
研究発表	内容
安田町立安田中学校 教諭 堀内 教代 先生	B1 衣食住の生活(食)

8. 指導助言・講演

高知大学准教授 柴 英里 様 高知県教育センター 指導主事 伊藤 乃 様
技術科講演 演題「新学習指導要領について」

— 成果と課題 —

本大会の開催にあたり授業者のお二人には多大なご尽力をいただき、会場校の大谷校長をはじめ教職員のご協力のもと、開催することができました。

技術分野の公開授業では図書やインターネットを利用し、自分たちが栽培し、植物の育て方の計画表を作成する姿が見られました。主体的な活動が見られる一方で技術の見方、考え方を意識できていない班もあり、自分が授業をする上での参考になったとの声が上がりました。その後の研究協議では参加者全員が質疑し、日ごろの悩みや主体的で対話的な学びになるための手法や栽培作物の選択について参加された先生方には多様なアイデアを出し合い情報を共有することができました。また、伊藤指導主事の講義では「新学習指導要領について」の演題のもと新学習指導要領の要点を聞いたことで研究主題を推進していくための参考になりました。特に「新学習指導要領の内容を理解→評価規準の設定→授業→学習評価へ」の一連の流れの説明により、授業を行う上での視点が明確になりました。来年度からは評価規準を3観点に設定し、技能と知識理解の評価について適正に進めていくことが課題としてあがりました。

家庭分野の公開授業では、消費者の権利と責任についての授業を公開していただき、具体的に自転車を購入する場面などを設定し、多くの資料等から生徒自身が判断する思考の過程がみられました。さらに生徒達自身が今後の消費生活をどのようによりよく送ることができるかを思考する場面もみられた。また、今年度の中四国大会(山口大会)での発表内容を安田中学校 堀内先生に再度発表していただきました。山口大会に参加できなかった先生方にも発表を聞いていただけ、研究主題を具現化したものを共有したことは大きな成果となりました。昨年から教育センター別役チーフの継続的なご指導を受けた発表は多くの先生方の参考になりました。

小学校体育部会

第33回高知県小学校体育研究大会

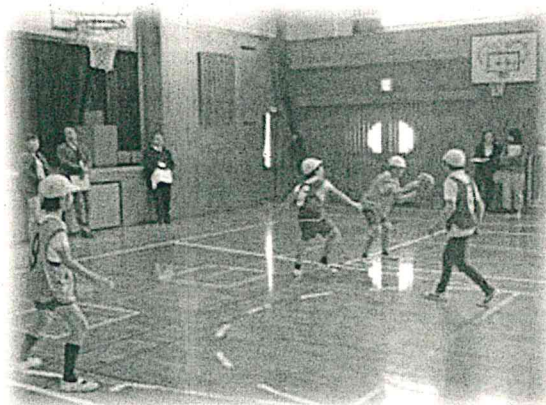
1. 研究主題・副題

楽しい，できた，もっとやりたい

～次への意欲をもって，運動や仲間と豊かに関わろうとする子どもの育成～

2. 研究仮説

ボール運動の本質的な特性や魅力に触れさせ，一人一人が達成感を味わえるような授業づくりを行えば，次への意欲をもって運動や仲間と豊かに関わろうとする子どもの育成が図られるであろう。



3. 検証の手立て

- ① 言語活動の設定
- ② 運動の特性に応じた動きづくり
- ③ 教材の工夫
- ④ 意図的・計画的な単元デザイン

4. 公開授業

香南市立夜須小学校において，5年生の「バスケットボール」の授業を公開した。授業においては，「コートを8分割した補助線を入れたホワイトボードを用いての作戦タイムの設定」「水平ゴールへのシュートを簡易化するための補助具の導入」「フリーシュートゾーンやボーナスポイントの導入」などの手立てを考えた。実際のゲームにおいては，フリーシュートゾーンを活用して全員が得点を決めるチームもあり，「ゴールが決まる」というボール運動最大の魅力をどの子どもも味わうことができた。そして，作戦タイムやゲーム中においても，積極的に考えを交流したり，仲間への温かい声かけをしたりする子どもの姿が数多く見られた。また，本単元が始まってからは，休み時間にもバスケットボールをして遊ぶ姿が見られるなど，運動に苦手意識をもつ子どもの意欲が高まってきていると感じている。これこそが，香美・香南小学校体育連盟として期待していた授業後の子どもの姿である。

5. 研究協議

場やルール，教具の工夫が多くあったこと，「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」だけでなく，「学びに向かう力，人間性等」まで意図をもって子どもに大切にしよう継続的に伝えていることなどについて肯定的な意見が出された。一方，「子どもの心に火がついた姿」をさらに掘り下げ，作戦を考え，それらを試し，得点につなげたいと，今以上に意欲的な子どもの姿が見られるような授業を考えていくことが今後の研究の方向性になってくるのではないかという意見もあった。課題の設定，子どもの思考を促すための教師の問いかけ，子どもの思考を見取るためのワークシートの活用などにそのヒントがあり，まだまだ改善の余地があると感じている。

土佐教育研究会 外国語・外国語活動部会

1. 研究テーマ

「グローバル化に対応した新たな英語教育を目指して」

令和2年度から、小学校で新学習指導要領が全面実施され、小学校における英語教育が本格導入される。それに伴い小中、中高の接続についても大きな変革が求められている。また、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、多言語が使用され、中でも世界共通語である英語の必要性はますます高まっている。今年度も引き続き、小中高を通じて一貫した学習到達目標を設定した授業実践をテーマとして取り上げ、今後の英語教育のあるべき姿を追究していきたいと考え設定した。

2. 高知県英語教育研究大会

(1) 提案授業 「高知県立梶原高等学校 英語教育の取組について」

提案者： 梶原高校 山本直子 教諭

梶原高校は、山間部にある小規模高校であるが、英語科教員が地道に生徒の英語力を向上させる取組を続けている。今年度から導入した、ICTを利用した遠隔授業により、嶺北高校や追手前高校吾北分校の生徒と合同授業を行ったり、教育センターの指導主事による授業を受けることができる。また、1年生が主になって参加するディベート大会「よさこいカップ」で昨年度は優勝するなど、山間部の生徒数が少ない学校でも、可能性を伸ばすことができる指導についての報告が素晴らしかった。

(2) 分科会

①小学校 「高知国際中学校英語科の取組」

高知国際中学校 長野千恵 教諭・堀見絵理沙 教諭

②中学校 「自ら考え、いきいきと表現できる子どもの育成

～外国語教育を中心に～

市原 佐知 教頭（大豊町立おおとよ小学校）

(3) 講演「最近の英語教育の動向 —小学校英語、小中高の接続、指導と評価—」

講師：信州大学学術研究院教育学科系教授 酒井英樹 氏

酒井教授から、最新の英語教育の最新の情報についての講演であった。特に来年度から小学校で英語が教科化されることについて、評価の仕方など具体的にお話いただいた。また、小中、中高の接続について、特に小中の接続が大きく変わるので、校種を超えて情報を共有していくことが大切であることを、参加者全員が理解でき、好評であった。

- 1 研究主題 「よりよく生きるための基礎となる道徳性を養う道徳教育の展開」
～自らを見つめ生き方を深く考える道徳科を要として～
- 2 日時・場所 令和元年12月26日(木) 南国市立スポーツセンター
- 3 公開授業
- (1) 授業者 南国市立北陵中学校 尾崎 麻美 教諭
- (2) 主題名 C-(13) 勤労
- (3) 教材名 「看護する」仕事 新しい道徳I (東京書籍)

これまでであった仕事が姿を消し、新しい仕事が創出されていく社会の中で、職業とはなにかについて考え、勤労を通して社会に貢献する喜びと意義について考えることが中学校1年生なりに深められていた。なにより、生徒は、自分の持つ道徳的価値をグループ活動を通して、対話することにより高め、自分を主人公に照らし合わせて、自らに問い、「自らの生き方」について真剣に考えることができていた。

4 実践発表

	提案題	提案者
小学校	誠実に価値と向かい合い、道徳としての問題を考え、実践する子どもの育成について授業実践を通して	南国市立岡豊小学校 井上 一志 教諭
中学校	「道徳」の授業の工夫と校内組織の充実について	高知市立一宮中学校 井上 美智子 教諭

小学校においては、道徳の授業実践により、授業力向上を目指し、授業者が内容項目を具体的に理解した上で発問構成を工夫した授業実践を行うことを通して、児童が自問・内省し道徳性の向上を目指していこうとする実践発表であった。

中学校は、授業展開において主題に迫る効果的なワークシートを研究し活用していることや道徳の時間のスタンダードを全教職員で研究し、だれもが授業実践できるように道徳の時間をペアローテーションにしていることについての実践発表であった。

5 講演

(1) 講師

関西学院大学 名誉教授

日本道徳教育学会 名誉会長 横山 利弘 先生

(2) 演題

「生き方についての考えを深める道徳科とは」

教師として子どもたちに道徳の授業を行うためにどのように教材分析を行うのかを教材「最後の年越しそば」を用いて具体的に解説していただいた。教材を深く読み込み、教材の

構図や振る舞う父親の姿を考え、父の思いや考えから温かい心で会話する父の姿を想像し、そばへの思いを考えながら私はどのようなことを考えたのかを問うことが大切であるということであった。

教師として学び続ける事の姿勢は教師を続けるうえでは重要であり、これからも持ち続けるべき使命だということを改めて学ぶことができた。

特別活動（小）部会

1 研究主題

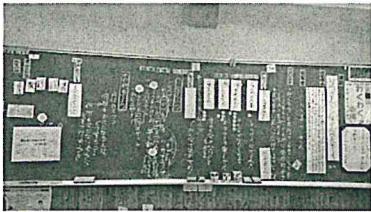
「よりよい人間関係や豊かな生活を築く特別活動の創造」

2 今年度の取り組み

- 高知県内の小学校へ出前研修（川北小学校・旭小学校・春野東小学校）
- 第14回 四国特別活動研究会での取り組みの発表（徳島県海陽町立穴喰小学校）

3 内容

(1) 研修の協力



・学級会グッズづくり

・模擬学級会

・特別活動の授業の指導案検討

(2) 四国特別活動研究会での取り組みの発表

<南国市立長岡小学校>

研究の内容

- ① 児童にとって話し合う必要感のある議題の工夫
 - ・学校全体の取組を学級会の議題にして話し合う。
 - ・「相手意識」をキーワードにして話し合う。
- ② 合意形成の意味や価値に目が向くための工夫・助言の積み重ね
 - ・「言ってみよう」（出し合う）では最初から意見を出しておく。
 - ・「聞いてみよう」（比べ合う）では、話し合いを可視化し、視覚で流れが分かるようにする。
 - ・「まとめよう」（まとめる）では「6つの技」を使う、提案理由に立ち返る。
 - ・終末の「先生の話」で、よかったところを具体的に評価する。
 - ・振り返りの時間を必ず取る。
 - ・「学級会の足跡」を作る。
- ③ 全校で「つながる」話し合い活動になるような工夫

<高知市立五台山小学校>

取り組みの内容

- ① 自分たちで決めたことを実践する代表委員会
 - ・「五台山小レベルアップキャンペーンの計画を立てよう」
 - ・「あったかことばキャンペーンに取り組もう」
- ② 楽しい時間を過ごし、互いのよさを認め合う児童集会の充実
 - ・みんなで遊んで楽しい時間を過ごす。（何が通ったでしょうクイズ・サンタさんの一日）
 - ・児童会のため達成を意識した活動「敬語ジャンケン列車」
 - ・友だちのことを知り、互いのよさを認め合う。（リコーダーの演奏・芸能大会）
 - ・憧れられる上級生に（各委員会年間1回の発表の場）



図 書 館 部 会

「2019年度 高知県学校図書館教育研究大会土長南国大会」について

「多様な読書活動を通し、自ら学ぶ力を育てる学校図書館」を研究主題に、10月3日（木）土佐町立土佐町小・中学校を会場にして、本年度の学校図書館教育高知県大会を開催した。豪雨のため開催が危ぶまれたが、県内各地より約60名の参加者があり、盛会のうちに終了することができた。

1 公開授業

土佐町小学校第4学年における新聞活用の授業が公開された。「土佐町小学校のよさを人に伝える新聞を作ろう」をテーマとし、土佐町小学校の良さについて調べ、見出しや割り付けなど新聞の特徴について学び、それを新聞にしようという単元の学習であった。本時の授業はモデルの新聞から紙面づくりの工夫を見つけ、取り入れたい

理由を他者に伝えるという学習が展開された。「クイズ」「アンケート」見出し「絵や図」「写真」という工夫や方法を積極的に取り入れて新聞を作成しようとする意欲を感じる授業であった。

2 取り組み発表

「読書の町 土佐町」

はじめに、土佐町小中学校図書館担当から、平成21年に施設一体型の小中連携校となったことや、そこからの図書館運営の取り組みが発表された。学校図書館に親しみ、読書の楽しさ・喜びを味わわせ、豊かな感性を育てるための取り組みや図書館資料を活用した授業など具体的な例を示しながらの話であった。

次に、土佐町立図書館の運営委託しているNPO法人SOMAから「土佐町立図書館の取り組み」についての発表があった。「町立図書館とNPO」「町立図書館と学校図書館」「授業連携」についての話であった。他機関と連携した取り組みを教育に生かし、子どもたちを育てているという内容であった。

3 成果と課題

今年度は「多様な読書活動を通し、自ら学ぶ力を育てる学校図書館」を研究主題とした学校図書館を活用した授業と取り組み発表であった。「新聞づくりをするためのきめ細かな指導方法を学ぶことができた。早速授業に活用したい。」との感想があり大変有意義な研究大会となった。今回の県大会の持ち方は、今までとは少し形を変えた午後開催としたものだったが、多くの成果があったのではないかと思う。

今、子どもたちに何が必要なのかを考え、学校図書館を活用した授業の在り方や資料の収集など研究を重ね、今後も学校図書館の果たす新しい役割について、家庭・地域・公立図書館等との連携も視野に入れながら、実のある研究を推進していきたい。

《視聴覚部会》

令和元年度 高知県放送・視聴覚教育夏季特別研修会

1. 研究主題 「新しい時代を生き抜くため、豊かな心と自ら学ぶ力を育てる放送・視聴覚教育の果たす役割を推し進めよう。」
2. 期 日 令和元年8月19日(月)
3. 会 場 ちより街テラス
4. 内 容 ①幼、小、中、高の放送番組やICT活用の実践発表

	実践発表	指導助言
幼稚園	「ピタゴラススイッチを活用した放送教育について」 横島 泉(杉の子せと幼稚園)	鍋島 享子 (前伊野幼稚園長)
小学校	『国語科「はたらく犬について調べよう」 ～単元を通した放送番組の活用～』 林 亮(馬路村立魚梁瀬小学校)	山本 健吉 (高知県・高知市放送・視聴覚教育支援の会事務局長)
中学校	「放送番組を活用した実生活に密着した発展的な課題の研究」 谷村 博貴(伊野中学校)	宮 英司 (一宮幼稚園長)
高等学校	「火山について理解を深める教材」 磯井佐 彰展(高知小津高等学校)	小島 一久 (高知学園短期大学長)

②講演

講 師：中塚 志暢 氏

(NHK制作局<第1制作ユニット>教育・次世代チーフ・ディレクター)

内 容：放送番組を活用した授業づくりへの助言とNHK for School の紹介

5. 参加者数 30名

令和元年度 高知県放送・視聴覚教育研究大会

1. テーマ

「新しい時代を生き抜くため、豊かな心と自ら学ぶ力を育てる放送・視聴覚教育の果たす役割を推し進めよう」

2. 期 日 令和元年10月30日(水)
3. 会 場 認定子ども園杉の子せと幼稚園 高知市立第六小学校
高知市立城西中学校 高知県立高知小津高等学校
4. 内 容 公開授業・研究協議
全体講演 演題「自ら学ぶ力を育む視聴覚教育・放送教育・ICT教育について」
講師 村井万寿男教授(北陸学院大学)

5. 参加者 60名

6. 成果と課題

- ・小学校での授業公開は、国語科「聞く・話す」の実践が少ない中での良いチャレンジであった。
- ・児童生徒に課題意識を持たせて、番組視聴をすると効果的な学習活動が展開できる。番組を視聴することで、話し合うための必然性のある状況を作ることができるのではないかな。
- ・保幼小中高が一堂に会し、学び合うことができたのはとても意義深かった。
- ・各園・校が、来年度の四国大会へ向けての見通しを持つことができた。
- ・今後、放送番組を活用した深い学びが実現するための授業づくりについて、さらに研究を進めていきたい。

第54回高知県進路指導研究大会

- 1 期 日 令和元年 11 月 13 日 (水) 13:30 ~ 16:45 (受付 13:00~)
- 2 会 場 須崎市立上分小中学校
- 3 主 催 須崎市教育委員会 須崎市教育研究所 須崎市立上分小中学校
- 4 共 催 土佐教育研究会進路指導部会 高知県進路指導研究協議会
- 5 日 程 (小) 14:15

13:10 13:30 (中) 14:20 14:30 14:40 14:50 15:30 15:40 16:45

受付	公開授業	移 動	児童生 徒発表	移 動	分科会 (40分)	移 動	全体会 (65分)
----	------	--------	------------	--------	--------------	--------	--------------

6 内容

令和元年 11 月 13 日に須崎市立上分小中学校にて、地域ぐるみ教育研究発表が行われた。研究テーマは「自分の考えを持ち、場面に応じた伝え合いができる子どもの育成」として、小中学校各学級の公開授業、児童生徒発表、分科会、研究発表等が行われた。

公開授業は、小学校 1・2 年生が体育館にて「昔から伝わる遊びを楽しもう」、3 年生は道徳の授業で「黄金の魚」、4 年生は算数の授業で「広さを調べよう」、5 年生は外国語の授業で「What time do you get up?」、小学 6 年生と中学 3 年生は総合の時間として「生き方を探る」、中学 1 年生は道徳の授業で「公平と不公平」、中学 2 年生は理科の授業で「生命を維持するはたらき」の公開授業が行われた。その後、体育館にて生徒発表「合唱」が行われ、各教室に分かれて分科会が行われた。

全体会では、開会行事の後、研究発表が行われ、今までの取組の研究成果が発表された。まず、研究の概要として基盤となる教育方法と視点、研究組織についての説明と部会の説明があり、それぞれの担当が地域との交流や学校図書館の取組、道徳教育の推進について、人権教育の推進について等様々な取組とその成果についての発表が行われた。授業形態による小中一貫の取組として、異学年交流活動等を実施し、教育的効果の向上を図っていることや行事による交流として地域との交流や合同の運動会等の実践例等を交えての研究発表だった。

今回の大会について、参加人数は約 200 名の教職員が参加しており、補足資料として体育館いっぱいパネル展示されていた生徒の取り組む様子などの写真展示や生徒の作品やワークシートの展示など大変わかりやすく日ごろの取組の成果がうかがえる発表となっていた。

令和元年度高知県小規模・複式教育研究大会

- 1 主題 「主体的に学び、生き生きと自己表現できる児童を育てる」
～分かった！できた！すごい！を全ての子どもに～
- 2 日時 令和元年11月22日（金）13：30～16：45
- 3 会場 佐川町立黒岩小学校
- 4 内容

(1) 公開授業・分科会

学級	教科	単元名・教材名	授業者
1年	算数	ひきざん「12-3のけいさん」	川田 常子
2年 つばさ	算数	かけ算（2）「九九をつくろう」	近藤 真由美 片岡 咲子
3・4年 （複式）	算数	3年：まるい形を調べよう「球」 4年：広さを調べよう「長方形と正方形の面積」	安井 正仁
5年	算数	比べ方を考えよう（1） 「こんでいるのはどっちかな？」	中田 浩香
6年	算数	比例をくわしく調べよう「比例の利用」	徳永 幸
あおぞら	生単	野菜を育てよう	前田 哲也

黒岩小学校の全学級の授業が公開されたが、部会としては主に3・4年生の複式授業に参加した。3・4年生の複式授業では、学習リーダー中心に授業が進められ、フォロアーも育っており、児童主体で授業が進められていた。授業後の分科会では、参観者から、学習リーダーがしっかりと育成されている、児童同士が意見を出し合い共学びができているなどの意見が出された。助言者である高知大学附属小・松山教諭からは、児童の学び合いを深める教師の手立てなどについて、附属小での事例を紹介しながら解説をしていただいた。

(2) 研究発表

研究発表では、研究テーマ実現を目指して授業研究を充実させたことが報告された。授業を通して一人ひとりが分かった・できたと思える指導方法の工夫や、友達をすごいとほめることができる仲間づくりにより、生き生きと自己表現できる児童を育てたいと考え研究テーマを設定している。取組により、授業の流れがしっかりと身に付き、見通しをもって学習に取り組み、算数用語を使って論理的に説明ができる児童が増えてきているとのことであった。

(3) 講演

最後に、秋田大学特別教授・阿部昇先生の講演「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり～「見方・考え方」「言語能力」の育成を重視する～」が行われた。新しい学力観・能力観が新しい教育方法を必要としており、それが主体的・対話的で深い学びであり、探究型授業であるとのことであった。また、質の高い学力が育つ話し合い・学び合いは、教師のコーディネート力が鍵となる。授業研究を日常化し、授業を見ること・見せることを当たり前にし、密室からの解放を行って欲しいと参加者に強く訴えていた。

環境教育部会

1, 研究テーマ 「豊かな感性を育てる環境教育」

2, 活動内容

I, [みんな集まれ まるごと五台山 ～リニューアルした牧野を満喫しよう～]

① 期日 令和元年10月27日 日曜日

② 会場 高知県立「牧野植物園」

③ 目的 園内の秋に咲く植物や実ができる木々を知り、自然に興味を抱かせると共にゲーム（カモフラージュ、フィールドビンゴ）を通して、植物固有の特徴をつかみ、本県における自然環境保全の大切さに気付かせる。

④ 内容

〈午前〉

○ 園内の散策（フィールドワーク）

・参加児童を2グループに分け、植物園温室から築山に向かうグループと南庭に向かうグループとに分かれ、それぞれの散策コースに咲く秋の草花について学ぶ。

今年は暖冬のため、フジバカマの花が残っており蜜を求めてアサギマダラの姿も見られた。

ア, フィールドビンゴ

・ビンゴカードに植物に関するお題を書いたカードを配る。解答を得るために植物のつくりや樹皮や葉の色を詳しく観察させることにより、個々の植物の特徴をつかんだ。

イ, カモフラージュ

・散策する通路（草木や岩の隙間）に人工物を隠し、どのような人工物が置かれていたか話し合った。

ウ, 森の色合わせ

・秋は色鮮やかな季節でもある。そこで、昼食前の20分間を利用し全参加児童で「森の色合わせ」を楽しんだ。

〈午後〉

ア, 木の実を使った飾り物づくり

・森林総合センターの方を講師にお招きし、杉板を土台とした上に創意に満ちた飾り物を完成させる。アイデアに乏しい児童については、引率して下さったご家族にもお手伝いして頂きながら飾り物を完成させた。

廃材や小枝、葉っぱや木の実を上手に接着させながら、自分だけの作品作りに没頭できたようであった。

3, 成果と課題

○ 五台山という利便性の良さにより、市内に在住する児童の参加が多かった。

また、リニューアルした「こんこん広場」を活用できたことも良かった。

○ 自然（草木）に親しむ活動を通して、植物について興味を持つ足掛かりとなったが、内容自体が環境保全を意識した活動ではなかったため、牧野植物園をフィールドにしたのだから、もう一步踏み込んだ学習が出来ると良かった。